

もの言う牧師のエッセー 第251話

「 ポケモン GO 」

スマホ向けゲーム“ポケモン GO”に熱中するプレーヤーらが世界中で大騒動を巻き起こしている。人をはねたりなど運転中のプレイによる死亡事故はもちろん、アメリカでは木に突っ込む人や停車中のパトカーに激突する“猛者”もいる。10代のギャルがキャラクター探しの途中で木によじ登ったあげく、体が枝に挟まって身動き取れなくなってレスキュー隊が出動したり、プレイ中に崖から落ちた20代の青年たち、夜中に個人宅に侵入し発砲された人や殺された人、“ポケストップ”にアプリを使ってビーコンを仕掛けプレーヤーをおびき出し強盗を働いた3人の10代の少年や、原発に侵入した人、ボスニア・ヘルツェゴビナでは危険な地雷原指定地域に入った人もいる。

京都御所では警報機騒ぎ、熊本城や出雲大社でも立ち入り禁止区域への侵入があった。広島平和公園や東京の世田谷公園周辺などでは駐車違反が後を絶たない。これら“ポケモン狂想曲”を見て、イエスが語った悪霊サタンの働き、

「汚れた霊が人から出て行って、水のない所をさまよいながら、休み場を捜します。一つも見つからないので、『出て来た自分の家に帰ろう。』と言います。帰って見ると、家は、掃除をしてきちんとかたづいていました。そこで、出かけて行って、自分よりも悪いほかの霊を七つ連れて来て、みなはいり込んでそこに住みつくのです。そうすると、その人の後の状態は、初めよりもさらに悪くなります。」 ルカによる福音書 11章 24-26節、

を思い出す。サタンによる徘徊、キャラクター（悪霊）のゲット、そして人への攻撃を意味する。鼻先に人参をぶら下げた馬のように、人はサタンによっておびき出され自分の欲に向かって疾走する。これが熟すると罪となり、最悪の場合は死に至る。

いっぽうで、このイエスの言葉にはもっと深い意味がある。汚れた霊に取り付かれた人とは問題を抱えた人を指し、その人が一生懸命がんばって立ち直ったのは良いが、後になって以前よりヒドイ状態に陥ることが描かれている。創造主である神に心を向けず、己の力で何とかなると考えている者がはまり込むドツボであり、イエスを信じ彼によって心の内側から変えられない人は同じ過ちを繰り返す。我らが神に求めるべきは祝福であって厄介ごとではない。そのためにすべきは神への悔い改めであり、彼に従うことだ。そうすることでサタンの攻撃をかわし、ドツボから抜け出すことが出来る。

2016-9-1

